

OASIS PPS-TC 第 20 回 F2F(Face-to-Face) meeting

PSLX 技術部会 Ad hoc 会議 合同会議

日時：平成 20 年 8 月 20 日 (水) 14:00~18:00

場所：(財) 製造科学技術センター 第 1 会議室

(東京都港区虎ノ門 3-11-15 SVAX-TT ビル 3 階)

出席者：川内 (プロセス経営研究所)、西岡 (PSLX、法政大学)、和田 (PSLX、テクノラティジャパン)、水谷 (日本ユニシス)、加藤 (MASP)、岡宗 (PSLX、製造科学技術センター)

議題

0. 前回議事録確認

内容を確認した。

1. 委員会仕様改訂コメント対応

(1) コメント 001 (高橋)

別紙

1-1 日本語版が正式とすることとした。スキーマファイルは OASIS サイトからダウンロードしたものでなく、PSLX プラットフォームで利用しているものを正式とする。

→正式版を PPS のドキュメントサーバにアップロードする (西岡)

スキーマの保存場所をパート 1, 2, 3 について変更した。

例) <http://docs.oasis-open.org/ppsv1.0/cs01/pps-core-elements-1.0.xsd>

1-2 プロファイルを修正した。(配布資料参照)

(2) コメント 002 (高橋)

別紙

2-1 スキーマの定義を仕様書で event 属性を追加するように修正した。また、スキーマ自身を修正した。(パート 2、15 ページ、16 ページ)

2-2 サンプルの記述を修正した。(パート 2、22 ページ)

(3) コメント 003 (西岡) パート 2 : 23 ページ図

SyncResuest -> action="Sync"

他の表記との整合性

修正した。

(4) コメント003 (西岡) パート2 : 38ページ

Condition, Selection 属性の記述が不明瞭

記述を追加した。

## 2. 業務プロパティの順序に関する制約の追加について

当初の提案では、プロパティの順序が構造を規定するように仕様を変更する予定であったが、X p a t h の仕様に[番号]を指定することで対応位置が定まるので、それを利用することとした。たとえば、以下の案1と案2は、プロファイルで以下のように識別することとする。

====案1====

```
<Order id="0001">
  <Produce item="りんご"><Qty value="10" unit="個"/></Produce>
  <Price><Qty value="100" unit="円"/></Price>
</Order>
```

対応プロファイル

製品名称	Produce[1]/@item	[単数]／複数
数量	Produce[1]/Qty[1]/@value	[単数]／複数
数量単位	Produce[1]/Qty[1]/@unit	[単数]／複数
金額	Price[1]/Qty[1]/@value	[単数]／複数
金額単位	Price[1]/Qty[1]/@unit	[単数]／複数

注) 上記で[1]を省略した場合でも同様の解釈となる。

====案2====

```
<Order id="0001">
  <Produce item="りんご"/>
  <Produce><Qty value="10"/></Produce>
  <Produce><Qty unit="個"/></Produce>
  <Price><Qty value="100"/></Proce>
  <Price><Qty unit="円"/></Price>
</Order>
```

対応プロファイル

製品名称	Produce[1]/@item	[単数]／複数
------	------------------	---------

数量	Produce[2]/Qty/@value	[単数]／複数
数量単位	Produce[3]/Qty/@unit	[単数]／複数
金額	Price[1]/Qty/@value	[単数]／複数
金額単位	Price[2]/Qty/@unit	[単数]／複数

なお、複数プロパティの場合に、どのレベルで要素を複数にするかを決定する情報が必要となる。

====案3====

```
<Order id="0001">
  <Produce item="りんご"><Qty value="10" unit="個"/></Produce>
  <Price><Qty value="100" unit="円"/></Price>
  <Price><Qty value="1.00" unit="ドル"/></Price>
</Order>
```

対応プロファイル

製品名称	Produce[1]/@item	[単数]／複数
数量	Produce[1]/Qty[1]/@value	[単数]／複数
数量単位	Produce[1]/Qty[1]/@unit	[単数]／複数
金額	Price[1]/Qty[1]/@value	単数／[複数]
金額単位	Price[1]/Qty[1]/@unit	単数／[複数]

====案3-2==== (これは不可とする)

```
<Order id="0001">
  <Produce item="りんご"><Qty value="10" unit="個"/></Produce>
  <Price>
    <Qty value="100" unit="円"/>
    <Qty value="1.00" unit="ドル"/>
  </Price>
</Order>
```

### 3. 日本語仕様と英語版の改訂手順について

現状は日本語版を最新バージョンとし、それにあわせて英語版を改定していくこととする。英語版の改訂（委員会仕様 02）は、2009年春にリリースとして、スケジュールを逆算する。（年末にいったんドラフトをまとめる）

#### 4. RDBスキーマおよびPSLXプロファイルの改訂

すでに、実装上必要なプロファイルの項目をいくつか追加した。最新版をファイルサーバにアップする。

PSLXのRDBとプロファイルとのアンマッチの問題を解消する必要がある。最大限一致させるように修正することとした。対応表を作成し、次回に確認する。

基本的な考え方としては、XML側にある項目は、RDBのどこかに設定可能とする。逆にRDBにある項目は、すべてXML側にあるとは限らない。(情報交換が必要なもののみに限定する。)

#### 5. 報告事項

##### (1) PSLXプラットフォーム計画

PSLXプラットフォーム計画で利用するクライアント、サーバツールの紹介をおこなった。

##### (2) MOF2008、スープ工場

APSOM担当の仕様の概要説明をおこなった。各アプリケーション間のメッセージの詳細の仕様が決定されている。

##### (3) MOF2008、カフェオレ工場

MESXで進められている仕様の内容の紹介をおこなった。

#### アクションアイテム

	項目	担当
1	スキーマファイル(最新版)をアップロード	西岡
2	仕様書の改訂版をアップロード	西岡

その他:

次回の予定

日時: 10月16日(木) 14:00~18:00

場所: 製造科学技術センター会議室

以上

## コメント 001

PPS の名前空間と PSLX 標準プロファイルについて、いくつかご確認したいことがあります。

### 1. PPS の名前空間と XML スキーマ

先日 (7/31) のキックオフで配布された CD の XML スキーマファイル (\*.xsd) と OASIS PPS の Web からダウンロードできるファイルの名前空間が、微妙に違います。(Web のほうは、<http://docs.oasis-open.org/pps/ns> で終るが、配布されたものはその後に Part 毎の識別子が続く。)

また、PPS の仕様書も、英語版と日本語版で名前空間が異なります。どちらが正しいのでしょうか？

日付的には日本語版のほうが新しいのですが、Committee Specification として公開されたものを日本語版だけ変更するというのは、許されないのではないのでしょうか。

### 2. PSLX 標準プロファイルについて

7月31日に配布された CD には、`profile-pslx.xml` という名前で、PSLX 標準プロファイルが含まれていました。

これには、

`Spec[@type='...']/@value`

という path が多く含まれていますが、これは `pps-core-elements-1.0.xsd` に当てはめると、ありえない path ではないのでしょうか。(Spec 要素は value 属性を持たない。)

## コメント 002

何度も申し訳ありませんが、PPS Part2 の同期トランザクションについて不整合と思われる箇所があるので、確認させてください。

Part2 委員会仕様 日本語版 (2008/05/09) の P.23 「5.2.1 同期メッセージ」に、通知依頼メッセージには event 属性で検出対象の事象を指定するように書かれています。

しかし、P.15 の TransactionType の XML Schema には、event 属性がありません。(ダウンロードした xsd および、31 日のキックオフで配布されたスキーマにも event 属性はありませんでした。)

これは、単純なスキーマの誤りでしょうか？

それとも、Sync トランザクションの扱いが変わったのでしょうか？

ご確認をお願いいたします。

また、あまり関係ないのですが、もう一点気づいたことがあります。

Part2 P.22 の通知トランザクションの例 7 で、<Order>要素の直下に <Qty>要素が記述されています。

これは、最新のスキーマでは許されないはずですが。